

(6) 2019年(平成31年) 2月14日(木曜日)

去年は私たち家族にとつて、試練が相次いだ年でした。

5月には不注意によって家に小さな火事が起こり、家の一部がダメージを受け、また消火にあたった夫が顔、手足にやけどを負いました。

また、10月にはこの2年間、日本で闘病生活を送っていた義父が亡くなりました。

すい臓がんということを考えれば2年間もよく守られた、とはいうものの、海を隔てた場所に住んでいるがゆえの無力さや、介護にあたっては日本の義母や義姉たちに対する申し訳なき、また何回もアメリカと日本を往復することの大変さなどを経験させられました。

それらの大きなことに加え、教会生活、人間関係も考えさせられる時期でした。

2019年に入つて振り返つた時に、本当に去年は波乱万丈な年だった、とあらためて思わされると同時に、よくここまで守られたなあ、という感謝が湧き上がつてきま

もつて、次になすべき正しいことをする」ということばで試練や問題が多くおこるとき、私たちの心は穏やかではなくなり、やらなければなら

南加キリスト教教会連合

愛をもつて、次になすべき正しいことをする

尾関 祐子

す。

去年、そのような中であつて、私を支えた一つのことばがありました。それは、英語の短いフレーズ、『Simply Do the Next Right Thing in Love』(シンプルに、愛を

ない多くのこと、また問題の大きさに圧倒されて、かえつてなにも手がつかなくなつてしまつたり、反対にどんなでもないことを言つたりやつたり、という失敗をしてしまつたことがあります。そのような

とき、感情的にも、イライラしたり、怒りやすくなつてしまひ、また落ち込んでしまつたりするようないこともありません。

でも、そのようなときに、ただシンプルに、「自分が次にすべき正しいことは何か？」を問ひかけることにより、本当にシンプルな「次」のステップにフォーカスし、

それが余計な心配を取り除き、心の重荷を軽くしてくれました。

火事の直後に人を泊める約束があつた時、また家が修理中で床がコンクリートむき出しの中、教会で出会つた新しい人を食事に招いた時、また、毎日々食を作るために献立を考える時、子どもたちに日本語やピアノを教える時

も、ただ、一瞬一瞬シンプルに「次の」やるべきことに

フォーカスすることによつて、暗やみを通つているような、先が見えないような思いになるときも、なんとか進んでいくことができました。

そして、このような考え方をすることができたのは、自分が聖書の神様を信じ、自分が愛されていること、赦されていること、そしてすべてが神様の御手の中にあつて最前に導かれることを信じているからです。そして一瞬一瞬、心の重荷を神様に委ね、代わりに神様からの平安をいただいていたからこそできたのだと思ひます。

聖書には、「だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日の日に十分あります」(マタイの福音書6章34節) というみことばがあります。私たちの人生

には、悩みや将来の不安は尽きることがありません。自分たちの老後、子どもたちの行く末、経済的な心配、家族、人間関係の悩み。しかし、神様に委ね、シンプルに、「次の」正しいことを愛をもつて行うことにより、後から振り返る時に、深い充足感と、豊かで幸いな人生の足跡を見ることができるとは、

私はクリスチャンになつて、シンプルに、そして幸いな毎日を過ごすことができることを、本当に感謝しています。あなたも、日々の重荷を神様に委ね、シンプルに、心配しない毎日を送つてみませんか。そして愛をもつて「次になすべき正しい一歩を踏み出してみませんか。

(オレンジコーストフリーメンジスト教会JCFN宣教師)

宣教師